

2025 年期 第 6 回課題研究テーマ（東京）

28 班～36 班

テーマ	あなたの所属する監査法人は、監査品質の向上と効率化を目的として、全監査チームに高度な AI 監査ツールを導入した。 このツールは、全量データを分析して異常取引を識別するだけでなく、複雑な会計上の見積り（例：減損の兆候、引当金の妥当性）に対しても、その合理性を評価し、推奨される監査上の結論を提示する機能を持つ。 あなたは、この AI ツールを導入した上場会社 B 社の監査主査を担当している。日本公認会計士協会が 2024 年 8 月に公表した「監査における AI の利用に関する研究文書」を踏まえ、以下の点について論述しなさい。 ① AI 監査ツールが提示した分析結果や結論を、監査証拠として利用する際の課題は何か。「ブラックボックス問題」と「アルゴリズムのバイアス」の観点から具体的に説明しなさい。 ② AI が「不正リスクは低い」と結論付けた重要な事業拠点に対し、貴方自身の判断では追加的な手続が必要だと感じた場合、職業的懐疑心をどのように発揮すべきか。AI の分析結果と自身の専門的判断が相違する状況において、監査チーム及び被監査会社とどのようにコミュニケーションをとり、最終的な監査上の判断を形成すべきか、そのプロセスを述べなさい。 ③ AI の活用が高度化する将来において、監査人の責任（特に意見表明に係る責任）はどのように変化し、また公認会計士にはどのような役割や能力が新たに求められるか。職業倫理の観点から、貴方の見解を述べなさい。
-----	--